

<学部等>

別紙2

意見書

I 対象となる学部等

医学部・医学研究科・附属病院

II 自己点検、外部評価実施時期

自己点検評価実施時期 令和3年11月

外部評価実施時期 令和3年12月

III 評価結果

今回の自己点検・評価では評価項目ごとに丁寧な分析がなされ、さらに今後の課題も積極的に抽出されているなど、十分な自己点検評価がなされてものと高く評価される。今回の自己点検評価の内容を部局内で共有していただき、今後の質向上に向けた貴重な資料として活用いただきたい。

まず、医学部・医学研究科における研究面については研究費の獲得と投稿論文数の増加のために、インセンティブ、教育、評価、人事的な縛りの各側面から様々な施策を講じており成果が着実に上がっている点が高く評価される。教育面では教育支援センターを中心とした教育の内部質保証体制が構築され、十分機能しており、特に、アウトカム基盤型教育を推進するよう、教学 IR データを効果的に収集し、学修成果の可視化など改善・質向上等に資し、その指標を用いて成績評価の厳格化し学生と保護者に共有するだけでなく同時に教育改善にフィードバックしていることも高く評価される。

附属病院では、病院長の強いリーダーシップのもとで毎年、附属病院の診療報酬請求額を過去最高に増加させるなど、健全で組織的な運営がなされている。また地域住民の健康への社会連携・貢献を含め、5年前に掲げた理念のもと、目標の達成のために教職員がそれぞれの役割を果たしており、地域医療に関する多面で特徴的な様々な取り組みによって、超高齢化社会に適切に対応する「福井型総合医療モデル」を構築し、地域医療向上に大きく貢献している。

一方で教育面で取られている成績評価の可視化と厳格化といった取り組みと同時に学生の精神面でのケアも考慮すべきである。また、大学院教育において、標準修業年限内修了率や学位授与数が必ずしも十分でないことが課題であり、博士論文の質を維持しつつこれら指標を向上させるよう工夫いただきたい。また、これまでに構築した研究交流のネットワークを活用して、第4期の目標である正規留学生の確保（特に博士後期課程）に結び付けていただきたい。さらに目標達成に向けて教職員のモチベーションが高まり、成果が出ている一方で、教職員への負荷の増加や優秀な人材の確保が課題でありこの点についてご考慮いただきたい。提出された自己点検評価書では、評価項目ごとに

〈今後の課題〉が適切に抽出されている。課題の中には今後の具体的な取組が提示されているものもあり、今後の部局の活動の更なる質向上に資するものであり、部局内で共有いただき、其々の取組を進めていただきたい。

<学部等>

別紙1

全学内部質保証委員会としての意見書

I 対象となる学部等

医学部および大学院医学系研究科（附属病院を含む）

II 自己点検、外部評価実施時期

自己点検評価実施時期 令和3年11月

外部評価実施時期 令和3年12月

III 評価結果

1. 活動は本学及び学部等の使命・目的に沿ったものであるか

適切である

2. 活動によって質の向上が図られているか

図られている

3. 外部評価における意見への対応は適切か

適切である

4. その他、特記すべき点・改善を要する点等

(1) 特記すべき点

- この度の自己点検・評価では評価項目ごとに丁寧な分析がなされ、さらに今後の課題も積極的に抽出されているなど、十分な自己点検評価がなされてものと高く評価される。今回の自己点検評価の内容を部局内で共有していただき、今後の質向上に向けた貴重な資料として活用いただきたい。
- 教育支援センターを中心とした教育の内部質保証体制が構築され、十分機能している。特に、アウトカム基盤型教育を推進するよう、教学 IR データを効果的に収集し、学修成果の可視化など改善・質向上等に資している。
- 地域医療に関する多面で特徴的な様々な取組みによって、超高齢化社会に適切に対応する「福井型総合医療モデル」を構築し、地域医療向上に大きく貢献している。
- 病院長の強いリーダーシップのもと、毎年、診療報酬請求額を過去最高に増加させるなど、健全な病院経営がなされている。

(2) 改善を要する点

- 「外部評価における意見への対応」に記載されているように、今回の外部評価における外部評価委員からの意見に対して、対応状況・策並びに部局長の意

見が明示されており、いずれも適切なもので、改善に資するものと思われる。
今後、対応策の具現化等に向けた取組等を進めていただきたい。

- 提出された自己点検評価書では、評価項目ごとに〈今後の課題〉が適切に抽出されている。課題の中には今後の具体的な取組が提示されているものもあり、今後の部局の活動の更なる質向上に資するものであり、部局内で共有いただき、其々の取組を進めていただきたい。
- 大学院教育において、標準修業年限内修了率及び標準修業年限 X1.5 内修了率が必ずしも高くないことを課題としてあげており、さらに学位授与数も必ずしも十分でない。博士論文の質が高いことは十分評価される点であり、質を維持しつつこれら指標を向上させるよう工夫いただきたい。

<学部等>

別紙1

全学内部質保証委員会としての意見書

I 対象となる学部等

医学部・医学系研究科・附属病院

II 自己点検、外部評価実施時期

自己点検評価実施時期 令和3年11月

外部評価実施時期 令和3年12月

III 評価結果

1. 活動は本学及び学部等の使命・目的に沿ったものであるか

適切である。

2. 活動によって質の向上が図られているか

図られている。

3. 外部評価における意見への対応は適切か

適切である。

4. その他、特記すべき点・改善を要する点等

(1) 特記すべき点

- ・ 附属病院の健全で組織的な運営と地域住民の健康への社会連携・貢献を含め、5年前に掲げた理念のもと、目標の達成のために教職員がそれぞれの役割を果たし、また、協働しながら取り組まれておられることがよく理解できました。どの側面でも素晴らしい成果を挙げておられると思います。
- ・ 特に研究面では、研究費の獲得と投稿論文数の増加のために、インセンティブ、教育、評価、人事的な縛りの各側面から様々な施策を講じておられ、成果が上がっている点が高く評価できます。
- ・ 教育面では、アウトカム基盤型評価とコンピテンシー評価を用いて学生の成果を可視化していること、その指標を用いて成績評価の厳格化して学生と保護者に共有していること、同時に教育改善にフィードバックしていることは高く評価できます。
- ・ グローバル面では、上位ランクの海外大学との研究交流に基づき、共同研究、国際共著論文といった具体的な成果に結びつけておられる点が高く評価できます。

(2) 改善を要する点

- ・ 教育面で取られている成績評価の可視化と厳格化といった素晴らしい取り組みと同時に学生の精神面でのケアの方もよろしく願います。
- ・ これまで培ってこられた研究交流のネットワークを活用して、第4期の目標である正規留学生の確保（特に博士後期課程）に結び付けていただきたいと期待します。
- ・ 目標達成に向けて教職員のモチベーションが高まり、成果が出ている一方で、教職員への負荷の増加や優秀な人材の確保が課題であるように見受けましたので、引き続きご配慮をお願いします。